



No. 2 April 1986

鹿田分館の現状

鹿田分館長 佐藤二郎

久留島陽三附属図書館長が本館報の創刊にあたって、本学の図書館は将来どうあるべきかについて

①総合大学院博士課程をもつ大学にふさわしい図書館づくりを行うこと、②国際化に対応した地方大学として、「内外に開かれた大学」にふさわしい図書館づくりを推進すること、③高度情報化に対応する大学にふさわしい図書館づくりを推進すること、と述べられています。全く同感であり、今後本学の教職員・学生と共にその効果的実現に努力を払うことが大切と考えている。

岡山大学附属図書館鹿田分館は昭和54年10月1日歯学部が新設され充実して来たことに依って昭和58年4月1日より複合分館として運営されることとなったものである。

鹿田分館の歴史は古く同分館は明治3年岡山藩医学館文庫として発足し、大正11年3月31日藩医学館が官立医科大学に昇格した後、大正15年9月8日医科大学に附属図書館が設置され、昭和24年5月31日岡山大学の創設に伴って、同年7月15日図書館は岡山大学附属図書館医学部分館と呼称されるようになった。現在の建物は昭和36年岡山医科大学創立百周年記念事業の一環として始まり、米国チャイナ・メディカル・ボード、同窓生、有志の寄付および国費等の援助により、昭和42年7月10日に完成開館されたものである。医学部分館は開館に伴って講座単位で購入管理されていた図書・雑誌を一堂に集めて管理運営されることになり、予算の大部分は各講座からの共同拠出(いわゆる中央費)となった。歯学部の開設と共に同分館は共同利用図書館となり、先にも述べたように複合分館となった。昭和60年4月1日現在の蔵書は、図書192,279冊、雑誌2,480タイトル、カレント誌1,715タイトル、製本冊数2,327冊を含めた年間受け入れは5,295冊となっており、図書購入費の総額は8,951万円(その内雑誌購入費6,500万円)となっている。

上記の図書・雑誌類の情報サービスについては現在、受入係、整理係、閲覧係および参考調査係の四係に分かれ、索引・抄録誌、JOISオンライン情報検索等により利用者のニーズに応えている。

以上鹿田分館についての成り立ちと現在を要約したが、明治・大正・昭和の時代を経過し、戦前・戦後を経て長い時の流れの中で蓄積・固定された古きよき伝統と急速で恐らく止まることのない科学の進歩の中で、長期的展望に立った改革を調和させることは容易なことではない。鹿田分館は有能な多数の運営委員を擁しているが、運営委員会のもとでの中央館との共同課題、医療技術短期大学の受け入れ、医学部予算内での長期展望(業務の電算化も含めて)等を検討している。

(さとう じろう 医学部 教授)

目

次

・鹿田分館の現状……………1	・利用者の声……………5
・学術情報センターと図書館……………2	・係の紹介……………6
・オンライン外国雑誌検索……………3	・日誌・その他……………6
・池田家文庫……………4	

学術情報センターと図書館

学術情報センターは、学術審議会の答申にもとづき、昭和61年4月に国立学校共同利用機関として設置されたものです。同センターはその前身である東京大学文献情報センターの学術雑誌総合目録作成事業等の活動を引継ぐとともに、新たに学術情報システムの構築を行うことを目的としています。その内容は、学術情報システムの構想に沿って、センターの機能である情報検索サービスと目録所在情報サービスのうち、まず后者のサービスである各種のMARC(機械可読目録)等の書誌データを提供するものです。これにより、各大学図書館の業務処理を支援するとともに、同時に形成される総合目録から、図書館相互間での資料の利用を促進し、一方で研究者等の情報入手の迅速化・的確化をはかろうとするものです。

この目録所在情報サービスのシステムは、図書目録システム、雑誌目録システム、相互貸借システムに分かれています。各大学図書館は目録作業、相互貸借業務、情報検索業務等に、このシステムを共同利用することにより省力化を図ることができるのです。

本学附属図書館では、この学術情報センターのオンライン目録システム接続への検討を急ぎ、諸条件が整い次第、同センターと接続する予定です。ハードウェアは、中央処理装置(コンピュータ本体)とN T Tから借りる通信回線、及び両者間の通信制御装置、そして目録用端末があります。またソフトウェアとしては拡張N V T機能つきN-1ネットワーク・ソフトウェア、及び学術情報センターから画面データを受取り、目録用端末へ表

示させる画面志向ユーザ・アプリケーション(U I P)があります。以上これらのハードウェア・ソフトウェア資源は、接続に必要な最低限のもので、図書館のローカル・ハウスキーピングとの連動には、オンライン画面で直接データのやりとりを可能にするソフトウェアの開発が必要です。

学術情報センターへの目録登録が開始されると図書館の目録はどのように変わってゆくでしょうか。まず第一に、本学総合情報センターへ岡山大学所蔵の書誌情報が蓄積され、現在本学で稼動している外国雑誌の所在検索と同様に、研究室から図書・雑誌すべての目録検索も可能になります。第二に、端末機が電話機と同様、各研究室に普及すればカード目録を廃止しオンラインによる目録検索の時代となるでしょう。第三に、学術情報センターへアクセスすれば全国の大学図書館の所蔵目録が検索できるというカード目録では考えられないことが可能になります。

現在、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学の4大学が学術情報センターに接続しています。さらに北海道大学など15大学が昭和61年度の接続を計画し、岡山大学の接続予定時期にはさらに多くの大学図書館が接続すると思われます。この学術情報センターシステムは、共同入力・分担目録作業ですから、接続館が多くなればなるほど効率的に作業ができるので、本学附属図書館においても一刻も早く接続ができるよう努力しています。

オンライン外国雑誌検索

附属図書館では、昭和59年10月8日から岡山大学所蔵の外国雑誌、約10,800タイトルの所蔵状況を本学総合情報処理センターのコンピュータに接続している研究室の端末機から検索できるサービスを開始しています。(名称をP E A C Hといたします。)

このオンライン・データベースの内容は、「学術雑誌総合目録自然科学欧文編」1979年版、「同人文・社会科学欧文編」1980年版、「同欧文編」1982年補遺版に対応する岡山大学所蔵分のデータを再編成したものです。また、検索システムは

D A T A 710による会話型検索で、各雑誌の所在をつきとめるものです。

このデータの整備は、サービス開始時に1984年度購入分を中心に更新をおこない、ひきつづいて新規受入分、中止のもの、受贈分等の所蔵情報の追加更新をして最新の状況を維持しています。

このデータベースは、学術雑誌総合目録番号、データ入力日、I S S N、出版年・地、分類番号、雑誌名、発行団体名、注記(誌名の変遷など)、所蔵場所、所蔵巻号から成り立っています。したがって、発行団体、I S S Nなどから簡単に検索で

きます。単語の綴りが不明確な時や長い時は前方一致機能が使えます。詳しいことは、マニュアルを作成していますので、担当係(参考調査係)に

ご請求下さい。以下に検索例を例示しますからお手元の端末機から検索して下さい。

ACOS-6/MVX TSS(R1.0) ON 02/26/86 AT 19:25:43 CHANNEL 4604

USER ID - _____ 入力
 PASSWORD--_____

** 750 LLINKS FILE SPACE USED **

SYSTEM ? D710 } 一括入力①
 TYPE OF TERMINAL? CHA } ① SYSTEM ? D710△CHA

 * DATA-710(R4.3) ADD-FUNCTION *
 * KEEP COMMAND (VIA OUTPUT) *

PROCEDURE? RET (検索手続の呼びだし) }
 CLASS OF DATABASE? CDB (センターデータベース) } 一括入力②
 DATABASE NAME? PEACH (外国雑誌所蔵データベースの名前) }

VIEW NAME? ;L
 NO VIEW NAME COMMENT
 #01 KANJI_R ② PROCEDURE ? RET;CDB;PEACH
 #02 KANA_R
 #03 OULP_REC
 #04 ****
 #05 KANA_T
 VIEW NAME? 05

STARTING OF RETRIEVE PROCEDURE.

COMMAND? SEA (検索コマンド)
 INQUIRY? TITLE EQ ACCOUNTS AND CHEMICAL AND RESEARCH (質問式)
 #01 1 RECORDS

INQUIRY? (論理演算子はANDをつかいます)

COMMAND? DIS (表示コマンド)
 INQUIRY NUMBER? 01 }
 DISPLAY STARTING POINT? } (表示形式) } 一括入力③
 DISPLAY COUNT? } ③ COMMAND ? DIS;.....
 DISPLAY FORM?
 LINE LENGTH?
 DISPLAY ITEM NAME?
 CONDITION?

#01 1 RECORDS

1/1
 ID_NO 0A0366N
 YYMMDD 840425
 ISSN 0001-4842
 PLACE 1968WASHINGTON, D.C.
 CALL Z43
 TITLE ACCOUNTS OF CHEMICAL RESEARCH.
 S_CODE SC1500
 ショック SCカカクカ
 HOLD 1(1968),9(1976)
 S_CODE LB1300
 ショック LBキョクトウリョウサツシ
 HOLD 12(1979)+
 S_CODE PH1000
 ショック PHヤカクカ
 HOLD 11(1978)

COMMAND? ;D (データ710の終了)
 SYSTEM ? BYE (TSSの終了)

**USED RESOURCE.CPU=1SEC CON=7MIN TYPE=STANDARD T-ID=04
 **COST 8YEN CURRENT-COST 42116YEN
 **ON AT 19:25:47 - OFF AT 19:32:11 ON 02/26/86

池田家文庫

中央館では、図書・雑誌などの文献のほかに、学術研究資料として地元岡山県の江戸時代を中心とした古文献約19万点を所蔵しています。これらは和漢典籍約4万点、古文書・記録類約15万点で、全体が文化財といってよいものです。後世に引き継ぐため書庫4階の特殊文庫書庫に保管して、ハロンガス消火設備や温湿度調節・消毒など環境整備には万全を期しています。書庫の内部は広いフロアに書架が立ち並び、帙や化粧箱などが天井まで整然と配架されています。信長・秀吉・家康ら戦国大名や歴代藩主の書簡などを収めた本棚もあります。江戸時代初期の備前国絵図・岡山城下町絵図など数メートル大の軸装絵図を並べた大棚もあります。大学図書館の古文文献のコレクションとしては、大規模で充実したものといえましょう。

なかでも質量ともに最大のものが全国に知られている池田家文庫です。昭和25年岡山大学の創立に当たって、旧岡山藩主池田家から譲渡されました。和漢典籍約3万2千点と藩政史料である古文書・記録類約6万点を擁しています。池田家は織田譜代の家臣から興し、豊臣から徳川家の有力部将に転身して戦国時代を生き残りました。姫路藩から鳥取藩への転封を経て、寛永9年(1632)に岡山へ入府(31万5,200石)してからは、維新までの約240年間備前一国を支配しました。

池田家文庫の和漢典籍は藩庁図書館の趣があります。池田家の出自を物語る指定文化財の「信長記」をはじめ、湯浅常山・土肥経平など家臣から学者を輩出したこともあって、古典名著が豊富に揃っています。

備前は関ヶ原の戦いで大阪方の副将を勤め敗者となった宇喜多秀家の勢力基盤でした。宇喜多に亡ぼされた“法華大名”松田家の影響で、“備前法華”とうたわれた強信の信仰地域でもありました。また秀家の有力家臣には熱烈なキリタン武将明石掃部らがあり、活発な商業・貿易活動が展開されていたようです。池田家はその残存抵抗勢力の根強い備前へ入りこれを押さえて、近世大名として領国の支配体制をつくりあげ成功します。それは中世から近世社会への大きな展開を物語るものでした。その具体的な政策は、独自の宗教・文教政策、児島湾沿岸の大新田造成、用水開発事業、城下町政策などです。岡山藩の治政は、今日の岡山県南の地域性の形成に重大な歴史的役割を果たしました。池田家文庫の藩政史料の内容はき

わめて多様ですが、こうした問題の解明の手がかりをはじめ、備前国の歴史を包括的に検討する重要な地域歴史史料といえます。

池田家文庫のほかに、和漢典籍約7千点があります。これは小野・黒正・大堀文庫の個人コレクションです。特に黒正文庫は、故岡山大学教授黒正厳博士収集の全国の百姓一揆資料でユニークなものです。

また約9万点の古文書・記録類があります。美作勝山藩の藩政史料もありますが、主体を成しているのは備前・備中・美作3カ国の計18家(それぞれ8・7・3家)の地方(村方)史料です。これらは江戸時代の村役人(庄屋・大庄屋など)の家に伝存した庶民史料で、所在地の旧村史料と私的史料(地主経営など)で構成されており、岡山県を特徴づける主要地域のものがあります。

当館では地元岡山県の明治以降の近代史に関する基礎的資料として、『岡山県統計書』を全年度分備え付けています。また近世期に成立した農家・農村の解体期である高度経済成長期1960・70年代の状況を把握した農林業センサス関係資料についても、県下全域のもの移管を受け保存しています。領域は異なりますが、近世地方史料群とこれら近・現代の資料群を一元的に組織すると、岡山県の近世から現代にいたる過程を具体的に検討することのできる資料群を所蔵しているといえるのです。

今後、当館の古文書を基礎資料に、各種の歴史資料を総合して、地元岡山県の歴史・文化を新しい視野で掘り起こしていくことが期待されます。

なお、特殊文庫の古文文献の利用については、『池田家文庫総目録』をはじめ『溝手家文書目録』『近世庶民史料目録』1～4巻の合計6冊の目録を刊行し、大学関係者はもとより一般市民にも公開しています。サービスの窓口は参考調査係です。



図書館を利用して

大賀 隆裕

四回生になって図書館の利用の仕方が変わった。それまでは大方の学生と同じく、レポートの資料探しがせいぜいであった。しかし、無事進級し、ゼミに所属してからはそれほど悠長に構えていられなくなってしまった。大学というものが中・高校と大きく異なるのはゼミの存在においてであろう。その中で我々は自ら計画し、それに従って学習せねばならない。やがて卒論としてまとめられるべきそれら一連の実習を支えるのは、種々の科学雑誌に掲載された論文であり、そして、また、それらを検索する場としての図書館はがぜん重要性を増してくるのである。

私の場合、検索する文献は自然科学系のものであるので主にChemical Abstractを用いている。自分が知りたいと思う分野に関するKeywordをgeneral-Indexに見出し、各巻でその論文のsummaryを読んで必要と思われるものをチェックしていく。最初の内は時間がかかる上、summaryを読みつけていないせいで、どの論文が本当に必要なか見当もつかず戸惑う事が多かった。要は慣れという事なのだが…。そしてチェックした文献を書庫から探し出し、コピーを取ればメタシメタシである。こうして得た、時には不必要とさえも思われる程の論文によって、私の実験は行くべき道を示され、裏付けされ、あるいは方向に修正を受けて進む事になるのである。

さて、漫然と利用していた間は特に不満のなかった図書館であるが、付き合いが濃密になる内に図書館に希望したい点が出て来た。一つは科学雑誌が少ない、という事であろうか。いちいち鹿田分館へ行くのは億劫だし手間でもある。そしてもう一つ、図書館サービスについてである。学生生活案内の説明だけでなく、我々が利用できるサービスの一覧や、もっと基本的な図書貸出し法などを含むパンフレットは当然あるべきだし、数人~十数人単位での文献検索ミニ講習会などを企画してもよいのではないか。蔵書を充実させる一方、それを十二分に活用できるシステムを整え、実際に学生が利用してこそ総合図書館と呼ぶにふさわしい機構が造られると考える。いずれにせよ、図書館抜きでは我々の実習は成り立たない。日々充実する図書館に期待してこの稿を終えよう。

(おおが たかひろ 薬学部4回生)

図書館を利用して思うこと

阿尻 美香

私は図書館に感謝していることが2つあります。一つは、図書館のおかげで採用試験に合格できたこと。もう一つは、図書館のおかげで無事卒業できたことです。採用試験直前まで強化練習があったうえ勉強の苦手な私にとって、図書館は3Cでした。3Cとは、Change・Concentration・Clean & Coolです。

Change -図書館とは一種独特の雰囲気を持つ所ですね。勉強嫌いの私も一歩図書館に足を踏み入れた途端「シャキッ」として「気持ちの切り換え」ができたように思います。

Concentration -「集中」家の机の前には30分と座っておれない私も「みんなも頑張っているんだわ!」と思うと勇気づけられ、能率も上がりました。

Clean & Cool -何ととっても夏の図書館は嬉しい場ですね。冷房がきいているのは有難かったです。下宿生にとって図書館は天国だったでしょう。

このようにして友達と励まし合いながら午前中は強化練習、午後からは図書館というスケジュールをこなしていった事が採用試験合格に導いてくれたのだと感謝しています。卒論の資料を探すに当たっても私は図書館のお世話になりました。言ってみれば3Fかしら。

Favor -私の卒論は「音楽教育」に関するテーマでしたが、その根底となった資料は「即興演奏の指導」(花井清著)でした。この資料を汗だくになって書庫から探し出し、卒論用の貸し出し手続をとって下さったカウンターの方の「親切」に心から感謝しています。あの資料がなかったら、私は卒論が書けなかったでしょう。

Friendship -卒論を書く時期になり講義棟でめったに顔を合わすことも無くなった同級生に図書館でバッタリ会うことがよくありました。「わぁー元気にしてた?」という会話が飛び交い親睦が深まりました。

Fighting spirit - 久々に会った友達と卒論の話をしていると「私も頑張らなくっちゃ!」というファイトが湧いてきて辛い論文もなんのその。こうして、論文はでき上がり、なんとか卒業できたのです。4年間で借りた本はごくわずかですが、図書館を通じて楽しい思い出がたくさんできました。最後になりましたが、親切にして下さった図書館職員のみなさまに心から感謝します。

(あじり みか 教育学部4回生)

運 用 係

運用係のカウンターでの主たる業務は電算機による図書館資料の貸出・返却・督促処理と、その他、演習室・グループ研究室の受付や館内施設の案内を行うことである。

1. 電算化業務について

昭和54年11月より貸出・返却・督促業務を電算化し、端末からのトランザクション方式により業務の能率化を図りサービスを行っている。

利用登録件数は約1万件（以下文中の数字は昭和59年度統計による）あり、開架図書8万冊、書庫内図書の内5万冊につき電算機処理ができるようにした。なお、書庫内図書については、逐時、電算機処理が可能になるようにしている。

(1)貸出・返却 電算機による処理件数は、貸出件数251件、1日最多貸出件数784件である。カウンターでの図書の貸出・返却の処理時間は、従来の方法の約1/5に短縮され、利用者サービスのアップにつながっている。

(2)利用者登録 電算化の内容①利用者データ変更・更新 ②IDカード作成 ③IDカード紛失処理 ④住所データ変更・更新 ⑤学部別五十音順住所リスト ⑥卒業生データ処理等である。

2. オープンシステムについて

中央館は昭和46年以降一部貴重資料を除き、利用促進の面から利用者が自由に書架に接し資料を直接手にとって見ることが出来る全館オープンシステムを採用している。また、各主題ごとに資料が集中配架される主題別開架閲覧制(社会科学2.6万冊、自然科学・技術2.2万冊、人文科学2.2万冊)も採用している。これは中央館蔵書中、講義内容に密着した指定図書、学習に必要な学習用図書及び参考図書をもって構成されている(開架8.4万冊、参考4.4万冊、指定2.2万冊)。

3. 日曜・夜間開館について

図書館では日曜開館・夜間開館を実施して、利

用上の便宜を図っている。主なサービスの内容は、貸出・返却・教官専用複写の受付である。ちなみに日曜開館(休日開館)を実施している国立大学附属図書館は14大学あり、1館平均年間開館日数23日である(本学中央館33日)。

4. 自然科学系外国雑誌コーナーについて

このコーナーは限られた予算の中で、より多くの学術雑誌を収集するとともに、それら学術雑誌の有効利用を図ることを目的として、昭和48年に本学における学術雑誌の共同購入・共同利用が附属図書館運営委員会で諮られ、昭和49年度に具体化されたものである。当初は学部の枠をこえて利用される化学系外国雑誌を配置して共同利用に供したのであるが、現在では物理学系24種、化学系52種、生物学系19種と共通部門7種を含む計102種が配架され、自然科学系外国雑誌コーナーへと発展している。

5. 今後の予定

(1)電算化の推進 現在附属図書館では4開発班(本誌第1号参照)に分れ業務電算化に取り組んでいる。そのうち、運用業務については貸出業務蔵書管理開発班が次のように開発に取り組んでいる。すなわち4班ともに開発が完了すれば、図書館業務電算化のトータルシステムになるが、本班ではすでに開発され稼動しているシステムに加え、雑誌の貸出・返却、教官長期貸出(蔵書点検)、学生特別貸出(修論・卒論)等の開発を進めている。

(2)図書館利用の手引き(1986年版)図書館の簡単なサービスガイドを目的として、新しく刊行した。これからも内容を検討し、毎年更新する予定にしている。

(3)国際化への対応 近年東南アジアを中心とした留学生(利用者登録40人)が増加している。留学生に早く図書館に慣れ親しんでいただくために、利用の手引き(英文版)の作成を計画している。

日 誌

60. 11. 13 ~ 15 第26回(昭和60年度)中国四国地区大学図書館研究集会

(於公立学校共済組合道後宿泊所)

60. 11. 21 ~ 22 第12回(昭和60年度)国立大学図書館協議会

中国四国地区協議会及び同協議会係長会(於国家公務員共済組合連合会さぬき荘)

60. 12. 20 昭和60年度(第3回)附属図書館運営委員会

<カット> 農学部教授 奥 八郎

<題字> 附属図書館長 久留島 陽三

岡山大学附属図書館報 ^{かい} 摺 Na.2 昭和61年4月

編集・発行 岡山大学附属図書館 〒700岡山市津島中3丁目1-1 電話0862-52-1111内線286